

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 月山)

事業所番号	0670102128		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん黄金		
所在地	山形市黄金81-1		
自己評価作成日	平成 21年 12月 1日	開設年月日	平成 18年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切にするのが運営理念でもあり、家族部屋を設けるなどの特色がある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部から少し離れた所に位置し、田畑や民家に囲まれた閑静で落ち着いた環境に当ホームはたたずんでいます。
「家族の絆を大切にする」という理念に基づき、認知症になっても家族と暮らせるよう「家族部屋」が設けてあり、住み慣れた地域で安心して暮らせる事業所です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 12月 16日	評価結果決定日	平成 22年 1月 12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他に施設の理念を設け、朝全員で唱和するなどのことを行い。日々実践できるように心掛けている。	「真心を持って笑顔で接する」「地域に根ざした生活を送る」という、事業所独自の理念を事業所内に掲げ、朝に唱和し、日々の支援の中で全職員が意識付けできるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭りなどの行事に出かけている。また施設近くの野菜農家から野菜を配達してもらっている。地域の床屋さんに訪問に来ていただき顔馴染みの関係を築いている。	例年町内会の夏祭りと文化祭に参加している。野菜を近くの農家から配達してもらったり、散歩に出かけた時には地域の方と挨拶を交わしたりと馴染みの関係を築いている。	地域の方との連携は良好となってきているが、全体的には地域の方の事業所への理解がまだ不足している面も伺える。今後は地域の方が気軽に足を運べるような取り組みを検討され、更に地域に溶け込まれるよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と共に散歩に出かけるなどをして、地域の方と顔馴染みの関係を作っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年は1回しか行われず、来年の課題となっている。	今年度は1月に1回目の開催を予定しており、事業報告、防災訓練時の地域との連携体制作り等を課題とし、民生委員や地域包括支援センター職員も出席して、積極的に意見を出してもらいたいと考えている。	年間の計画やスケジュールなども考慮しながら、運営推進会議で取り上げる「テーマ」について予め検討しておき、開催回数の増を考慮した取り組みも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの連絡や会議などは必ず参加し、連携を図っている。また生活保護の利用者の場合は密に担当者と連絡を取っている。	市担当者とは、市が主催する会議での意見交換、生活保護利用者や困難な事例があった場合には密に相談しており、また、毎月1回の介護相談員の受け入れ等を通じて連携が図られ、協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。(夜間のみ)現在身体拘束をしている利用者はいない。	夜間は安全を考慮しホームの玄関を施錠しているが、ユニットの玄関は常時開放している。外出しそうな利用者がいれば言葉で引き止めるのではなく、会話をしながら職員も一緒に外を散歩し、利用者自身が納得してからホームに帰ってくる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者に目を配り、痣や怪我がないか注意を怠らないようにしている。また職員に会議があるときに他の施設の虐待の例などをあげ、注意をうながしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の際に勉強会をおこなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際契約を行っているが、必ず家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年家族の意見を聞く会を設けたが、今年は会社の方針として家族会を立ち上げようとしており、現在準備が進んでいるところである。	日頃の会話の中で利用者からは話を聞き、家族からは面会時に意見・要望を聞くように心がけている。今年は家族会の設立が予定され、現在準備が進んでおり、定期的に食事会等の会合を企画して何でも言ってもらえるような話しやすい雰囲気作りを努め、運営の改善や反映に繋げていきたいと考えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なるべく毎月全体会議を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則が昨年大幅に改定され、条件が整いつつあるところである。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があるときはなるべく時間内で研修を受けられるように図っている。施設でも全体会議内で簡単な勉強会を行っている。また毎年実践者研修の申し込みをしている。	県内のグループホーム連絡協議会や社会福祉協議会の研修会に、経験年数や段階に応じて参加できるようにし、職員の育成に取り組んでいる。また、管理者が講師を務める内部の研修会も定期的開催されている。研修発表会や月1回の全体会議において伝達し、職員の共有が図られ、日々のケアの中で実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡協議会やスクラムチャレンジの会議や研修会を利用しネットワークを活用し、サービスの質の向上を図っている。	グループホーム連絡協議会で主催する村山地区内の他のグループホームとの交換研修や、同法人内の管理者会議、ケアマネ会議の場で情報交換を行っており、地域性の違いから得た学びをサービスの質の向上に活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や入所後に本人の訴えをよく聴き、環境に慣れるように援助を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所後に本人や家族の訴えをよく聴き、できる援助はなるべく行うようにし環境に慣れるように援助を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前や入所後に本人や家族の訴えをよく聴き、必要な援助を見極めるようにし援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方々と共に暮らしているものとして、言葉使いなどに注意するよう指導している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りを送り、家族との絆は大切にしている。また日々面会にいらした時に、状況を報告したり、変化があった時は電話で報告している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に行っていた美容院へ一緒に行くなどの支援をしている。また近所の方が面会に来てくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考慮しテーブルの配置を考えたり、利用者同士の助け合いができるよう声掛けや援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退所になった利用者などに面会に行ったり、電話で様子を確認したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が本人のしたいことやしてほしいことを聞き出したり検討したりして、アセスメントを行っている。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情から思いを汲み取り、家族等からの情報も得ながら、法人独自で作成されたアセスメントを活用して、利用者一人ひとりの意向を把握し介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に担当ケアマネや家族や本人から情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やフロアーミーティングなどで情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やフロアーミーティングなどや、ケースカンファレンスで情報を出し話し合い今後の介護計画に反映している。	利用者や家族の思いを反映し、また、職員の意見・情報・気づきを取り入れたケースカンファレンスが開催されており、3ヶ月に1回の定期的な評価や状態変化毎の評価に基づく、利用者本位の介護計画の作成と見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は気づきや工夫を記録し、申し送り時やケースカンファレンスで情報を共有しながら介護計画に反映している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域資源を活用するまでの援助はまだできていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族の希望を優先し、今までのかかりつけ医に受診する方は原則として家族が対応していただいている。家族が遠方で対応できない場合は職員が対応している。また往診して下さる近隣の医師がいるので、そちらに移管した利用者の方も居ます。	利用する前からの希望するかかりつけ医に基本的には家族同行とし、不可能な時には職員が代行して通院介助をしている。協力医院による月2回の定期的な往診があり、救急や入院が必要な時は迅速な対応をもらったり、利用者、家族等の安心に繋がっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師は居ないため、医療に関する疑問や質問は原則として、かかりつけ医にうかがっている。簡単な指示については会社関係の看護師の意見を聞いたりしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は情報提供書を医療機関に提出している。またかかりつけ医に相談をしながら受診している			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はどのようにするか、施設として出来る事出来ないことを家族に説明している。	事業所には看護師がいない為、医療行為が出来ない旨を家族等に説明している。状況変化に応じ、主治医、家族等と話し合いを重ね、意向を確認し、対応方針の共有が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで対応について学んでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は今年3回行っている。地域との連携については今後の課題である。	今年3月、6月、12月に昼夜を想定した避難訓練を3回実施している。防災業者の指導を受けて警報機の使い方、通報訓練も合わせて行なっている。スプリンクラーの設置を来年予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重するような声掛けや対応に努めている。対応が不十分な場合は注意している。	利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて、本人が意志決定しやすいようなさりげない言葉遣いや声掛けに配慮している。個人記録簿は事務所の書棚に目につかないように保管されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表示が出来ない方などは本人の意思を検討している。なるべく本人の希望を聞くようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや外出時の着替え、また行事参加時の着替えなど支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はなるべく出来る事はしていただき、職員も利用者と一緒に食事している。後片付けも一緒にやっている。	利用者の希望を取り入れ、職員が一般の家庭のように考えた献立で買い物から後片づけまで一連の作業を出来る方は職員と一緒にしない、同じテーブルを囲み、食事を楽しみなものにしている。旬の野菜を近くの農家の人に届けてもらい、地域の人との交流の1つになっており、苦手なものやお粥、きざみ等食事形態にも対応がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない場合は食事摂取表を別に作り、食事摂取や水分摂取について細かく記入し配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや援助を、その方の状況に合わせて援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄状況に合わせた排泄用品の使用や、排泄パターンを把握し失禁がないようトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表で確認し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた早め早めのさりげない声掛けや誘導、失敗した時のフォロー等自尊心に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況を把握し下剤の調節や便通のためお茶の飲用などを勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間などは現在は決まっているが、利用者の希望に沿った時間や回数などの支援が必要と感じている。	週3回以上の入浴を基本としているが、回数、時間帯、順番等希望に添った柔軟な対応をしている。拒む方への工夫やタイミング、入浴剤やゆず湯等季節感を取り入れながら、入浴を楽しめる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の自由にさせていただいている。夜眠れなくなるなどの弊害が特に今の所ないので、フロアのソファなどで居眠りしたり、和室で横になることも出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については薬の情報提供書を全員が閲覧できるようにしており、薬の変化があった場合は必ず申し送りをを行い、全員周知するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好を把握し本人の楽しみごとができるよう支援している。雑誌を読むのが好きな方、歌を歌うのが好きな方など			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望になるべく沿っている。	県内の法人グループ合同で制作した「かかし」を毎年上山かかし祭りに出展しており、見学に出かけるのが恒例になっている。個別の外出希望にも添うようにしており、毎月計画されている外出は季節を目と肌で感じられるような配慮をしており、楽しみなものになっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を持って管理出来る方はほとんど居ない、家族が本人に持たせている場合は全て把握できているわけではないのが現状である。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より申し出があれば電話や手紙のやり取りは支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを行っている。光や音・温度は利用者に意見を聞き対応している。	ホールには干支の貼り絵や季節の飾り付けがしてあり、ソファや畳スペースのこたつ等、利用者は思い思いのところを過ごしている。間違いやすいところには大きく表示したり、玄関に並べられたプランターの花の世話や草取り、清掃等出来ることはしてもらい、清潔感のある居心地のよい共用空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすを置くなど。またソファや和室で対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を持参したり、馴染みのものを持参している利用者の方がいる。	居室入り口にはそれぞれ色別ののれんが掛けてあり、各々自分の家のように配慮が感じられる。ベット、チェスト、テレビが備えつけてあり、畳敷きにしたり、各ユニットに家族部屋が2室あり、複数名での利用も可能で、多様な需要にも対応出来、安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や浴室の場所がわかるような工夫をしている		